

2026

6.17 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_iOGi6jwVQ8KzblR8AHnWfQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

働く女性の健康課題

- なぜ日本では Healthy Worker Effect が成立しにくいのか -



Key Words

健康労働者効果

ジェンダー

産業保健

就労女性

錦谷 まりこ 准教授

九州大学 データ駆動イノベーション推進本部

山口県宇部市出身です。2000年に東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻を修了し、博士（医学）を取得しました。北里大学、帝京大学を経て、2011年より福岡女子大学准教授、2014年より九州大学データ駆動イノベーション推進本部准教授を務めています。2009年にはハーバード大学公衆衛生大学院にて MPH を取得しました。専門は公衆衛生学・社会疫学で、日本ストレス学会評議員、日本行動医学会理事・編集委員長を務めています。非正規雇用と健康格差、女性労働者の健康、高齢者の ICT 利活用を研究し、JST・NSF 国際共同研究や母子遠隔健診研究に従事しています。荒記記念賞、優秀論文賞等を受賞し、『ケースで学ぶ公衆衛生学』等の著書があります。

本セミナーでは、日本における働く女性の健康課題について、Healthy Worker Effect の視点から考察します。Healthy Worker Effect には、「働いている集団は、そもそも就労可能なほど健康状態が良い集団である」という疫学的特徴とともに、「社会参加や経済自立を通して就労は健康維持に良い影響を与える」という意味も含まれます。2007年に実施した非就労女性（主婦）と就労女性の比較研究では、日本の女性において必ずしも世界的には標準である Healthy Worker Effect が確認されない可能性が示されました。

その後、日本では女性就労がさらに拡大し、働き方や職場環境、男性の家事・育児参加も徐々に変化してきました。また、月経、PMS、更年期など女性特有の健康課題に関する研究も進み、プレゼンティズムや Well-being との関連が明らかになりつつあります。一方で、少子化や伝統的性別役割分担の影響はなお残されており、課題は継続しています。本講演では、こうした変化を踏まえ、性差の視点から職域の健康課題を捉え直す重要性と、Well-being 向上に向けた今後の研究・実践の方向性について議論します。